



令和八年度 入学試験（一般・後期選抜・第二回）問題（国語）

一次の文章を読んで、後の【1】～【5】に答えなさい。

たのしさも苦しさも、過ぎてしまえば夢のようなものだが、その時々<sup>の</sup>気持次第で、ある時間というものをとても長く感じたり、その短かさを物足りなく思ったりするものである。

十二ヵ月の中で、一月という月は長い。

年毎に私はそう感じるようになった。

そして、なんだまだ一月なのかと、多少疲れたような気持でいるうちに、パタパタと二月が来てしまい、すぐ三月の声を聞く。

一月の長さに比べて、二月はまったくあわただしく、あの兎のように、

「これは寝過ぎた、しくじった」

と、<sup>きせわ</sup>気忙しい思いをするのが毎年の例である。

私はまた、子供の頃にあれほど待ちこがれた正月の、如何に短かく済んでしまったかを思い出しもするのだが、そうすると七草などという古風な呼び方にも感慨をそそられる。

七草、つまり七日は、たしか学校の始まる日である。前の晩には、とにかく宿題を片づけなければならなかったし、松飾りを外した町の淋しさが眼に浮んでくる。

私はこの二、三年来、ある婦人雑誌の文章欄の選者を続けているが、応募者の投稿に、つましく木綿糸で綴じたのが時々あり、これを見るたびに宿題の記憶がよみがえる。

僅かな暇を **㉠**、数枚の原稿に見聞をたくした家庭の主婦が、木綿糸で自作を綴じる時の気持は、よろこびに満ちているに違いないのだが、私は私で宿題の辛さを思い出すのだ。

青年期に家を離れてからの正月は、一向たのしい記憶がない。家の貧しかったせいもあるだろうが、家へ帰ったり親戚を訪ねる気はなかったし、三ガ日中行き処がなく、独身アパートで寝て暮し、三度の食事にも困った。三ガ日はそばやまで店を開かなかったからである。

クリスマスが、正月にとって変り、訪ねたり訪ねられたりする自分の娘達の生活を眺めていると、**㉡**だった青年時代が心にくすぶってくる。

その代り、妻帯してからは、こうもありたいと思っていた正月を、私は性急に実現しようとして、度々妻を困らせた。

菊池寛氏がその「半自叙伝」の中で、

「よく少年時代の苦労はかまわない。晩年楽をすればなどというが、しかし少年時代に、感覚も感情もフレッシュであるとき、面白いことをすれば、老いて多少苦労をしてもいいのではないか、とも考えられると思う。少年時代に遂げられなかった望みなどというものは、年が寄ってから償いようがないように思う」

と、少年時を **㉢**しているが、貧家に育った私には身にしみる思いがする。

年の初めを祝うという、儀式的な気分を尊重する他に、少年の頃に味わえなかった正月のたのしさを、自分の家に再現したいと、私は年々に願ったのだが、考えてみればはかないことでもあるようだ。

クリスマスといえば、やはり少年時代にこんなことがあった。

十一月の末か十二月に入ると、友達と一しょに近所の教会の日曜学校というものへ通うのである。日曜学校の常連の子供達には、クリスマスの日にさまざまなおプレゼントが贈られると聞いて、子供心に飛び入りをこころざした訳で、クリスマス・ツリーに美々しく下げられた数々の玩具や文房具の類は、いまでも眼に見えるほどだから、よほど心を奪われたに相違ないが、一年通った常連と飛び入りでは、プレゼントに大きな差別のあるのは当然である。心ばかりのカードかなにか与えられて、みじめな気持で帰ったのを覚えている。プレゼント目当ての自分が、子供心にも省られたからなのである。

木綿糸で綴じた主婦の投稿から、宿題の辛さを思い出したといったが、その木綿糸は実はもっと苦しい記憶に

つながる。学校で使う書取帳とか、算術帳の余白がなくなると、母親に新しいのを買おうと言い出し、代りに一じょういくらかのわら半紙を買ってきて、私はよく手製の帳面を作ったものだ。

太い木綿針に、木綿糸を通し、それで二つ折りにしたわら半紙の背を縫った。帳面はそれで済んだが、うわ履きの草履がすり切れて、使用に耐えなくなるのは手のほどこしようななかった。

「年のはじめの、ためしとて、松竹立てて門」と  
と、歌う日本風な唱歌が、私の耳に聞えてくる。

「少年時代に遂げられなかった望みなどというものは、年が寄ってから償いようがないように思う」という菊池氏の感慨は、胸をうつのである。

私は貧乏を憎むが、しかしそれだけではない。貧しさに負けて、子供への愛情をおろそかにした私の母を悲しみ、いじけた姿の少年の自分をうとましく思う。

新年号だというのに。私の思い出は明るくなくて、カレンダーの余白をまず汚したようである。

(永井龍男『宿題』)

【1】 空欄⑦イに該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問1 2】

- 1 ⑦ ①貧相 ②清貧 ③貧寒 ④寒色 ⑤酷寒  
2 ① ①瞑想 ②空想 ③夢想 ④回想 ⑤黙想

【2】 二重傍線部「暇を」に続く④として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 3 ③ ①みつけて ②ぬすんで ③もとめて ④さだめて ⑤さがして

【解答欄は問3】

【3】 二重傍線部「言い出し」に続く③として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 4 ④ ①かねて ②そびれて ③づらく ④そこねて ⑤はぐれ

【解答欄は問4】

【4】 この文章の作者・永井龍男の作品として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問5】

- 5 ⑤ ①『舞姫』 ②『飢餓海峡』 ③『邪宗門』 ④『夫婦善哉』 ⑤『青梅雨』

【5】 波線部のように記した筆者の思いとしてふさわしいと考えられるものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問6】

- 6 ①年のはじめなのに、貧しく辛い子供時代しか心に浮かばないことが何とも情けない、という思い。  
②やり直せない子供時代への不満を、齢を重ねた今なお払拭できない自分が疎ましい、という思い。  
③貧しかったとはいえ、自身に対する母の日々を振り返ると何とも複雑で困惑してしまう、という思い。  
④老いた今も、本来大切なはずであった子供時代への悔恨が残っていることへの、やりきれない思い。  
⑤ともあれ正月なのだから、厳しかった日々の事を脇に置いて清々しくスタートせねば、という思い。



町名の表記の変更でどうなったかわからないが、私が女学校に通うころまでは確かにその名はあった。

ああいう優美な鶴と、鶴女房のいたいたしい話を比較してみると、そこにどういいう関連が生まれて来るのか、恐らく、雪と寒さに塞ふさされた国々の山中で鶴も羽を縮め、脚をすくめて、そういう民話のヒロインになったのではあるまいか。

( 円地文子 『鶴』 )

【6】 空欄(a)(b)に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問7 8】

- 7 (a) ①当然 ②歴然 ③自然 ④純然 ⑤必然  
(b) ①伝説 ②伝習 ③伝統 ④伝播 ⑤伝承

【7】 二重傍線部「少しも」に続く◆として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 9 ①かなしまずに ②いたわらずに ③かえりみずに ④ためらわずに ⑤ねぎらわずに

【解答欄は問9】

【8】 空欄\*と\*\*には同じ語が入ります。正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 10 ①原形 ②原典 ③原作 ④原説 ⑤原案

【解答欄は問10】

【9】 この文章の作者・円地文子の作品として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 11 ①『浮雲』 ②『キャラメル工場から』 ③『氷点』 ④『女坂』 ⑤『たけくらべ』

【解答欄は問11】

【10】 波線部のように記した筆者の思いとしてふさわしいと考えられるものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問12】

- 12 ①哀しい鶴の話に接することに、母の優しさがいくつになっても心をよぎる、という思い。  
②やりきれない物語の根底には、鶴によって教えられた「やさしさ」がある、という思い。  
③気高い鶴の物語を心に浮かべるたび、人間の業の深さと母の故郷が脳裏から消えない、という思い。  
④こんなにも切なく残酷な話の背景には、それを生み出した時代の特殊性がある、という思い。  
⑤人の心の貧しさと愚かさを理解しつつも、機織りをやめなかった鶴が何ともやるせない、という思い。

三次の【11】～【15】の語のなかで、他と大きく意味の異なるものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 【11】【解答欄は問 13】
- ① 目前
  - ② 親近
  - ③ 眼前
  - ④ 間近
  - ⑤ 直前

- 【12】【解答欄は問 14】
- ① 反駁
  - ② 異議
  - ③ 反論
  - ④ 意義
  - ⑤ 異論

- 【13】【解答欄は問 15】
- ① 漏洩
  - ② 露呈
  - ③ 発覚
  - ④ 露見
  - ⑤ 発見

- 【14】【解答欄は問 16】
- ① 不測
  - ② 欠乏
  - ③ 欠落
  - ④ 欠如
  - ⑤ 不足

- 【15】【解答欄は問 17】
- ① 追究
  - ② 探索
  - ③ 追従
  - ④ 究明
  - ⑤ 探究

四次の【16】～【20】の記述のなかの□に用いる言葉としてふさわしいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

- 【16】「彼の提案は、出席者全員から一笑に□た。」【解答欄は問 18】
- ① 試され
  - ② 付され
  - ③ 成され
  - ④ 託され
  - ⑤ 覆され

- 【17】「やはり君には、難□度が高過ぎたようだ。」【解答欄は問 19】
- ① 位
  - ② 異
  - ③ 易
  - ④ 違
  - ⑤ 意

- 【18】「たどり着いたのは、まさに奈落の□だった。」【解答欄は問 20】
- ① 闇
  - ② 末
  - ③ 淵
  - ④ 際
  - ⑤ 底

- 【19】「結局、私はこれまで、馬齢を□に過ぎなかった。」【解答欄は問 21】
- ① 重ねた
  - ② 加えた
  - ③ 収めた
  - ④ 委ねた
  - ⑤ 極めた

- 【20】「彼女の一言は、その場の雰囲気□をさした。」【解答欄は問 22】
- ① 酒
  - ② 棹
  - ③ 白湯
  - ④ 水
  - ⑤ お湯

五次の【21】～【25】の作品の作者として正しい人物を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【21】『飼育』【解答欄は問【23】】

- ① 遠藤周作
- ② 三島由紀夫
- ③ 大江健三郎
- ④ 阿川弘之
- ⑤ 吉行淳之介

【22】『すべての恋が終わるとしても』【解答欄は問【24】】

- ① 坂元裕二
- ② 冬野夜空
- ③ 川口俊和
- ④ 市川拓司
- ⑤ 八目迷

【23】『ノンちゃん雲に乗る』【解答欄は問【25】】

- ① 壺井栄
- ② 松谷みよ子
- ③ 住井すゑ
- ④ 石井桃子
- ⑤ 岩崎京子

【24】『カラマーズフの兄弟』【解答欄は問【26】】

- ① フォードル・ドストエフスキー
- ② ギュスターヴ・フロベール
- ③ オノレ・ド・バルザック
- ④ サマセット・モーム
- ⑤ ヘンリー・フィールディング

【25】『少年は戦場から消えた』【解答欄は問【27】】

- ① ビアトリクス・ポター
- ② ライマン・フランク・ボーム
- ③ ルイーザ・メイ・オルコット
- ④ マイケル・ボンド
- ⑤ ルドルフ・フランク